

■ 2025年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目	数学(文系)
----	--------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

＜総論＞ 2024年度に比べればやや易化したが、難しい問題も一部出題されているので、難易度を見極めて取り組む必要がある。 ①は平面ベクトルの問題としては標準的なレベルであり、できれば完答したい。(3)の答の数値が複雑であるため、計算ミスをしたと思った受験生も多かったのではないかと。計算自体が難しいわけではないので、何度か検算を行い確実に正答したい。 ②は与えられた漸化式で定義された数列に関する証明問題が出題された。具体的に一般項を求めるわけではなく、文系としては珍しいタイプの問題であった。(1)は見かけほど難しい問題ではないが、(2)は非常に難しく回避したほうが得策であった。 ③は微分・積分を用いて面積の差の最大値を求める問題であり、計算自体も平易で是非とも完答したい。 ＜特記事項・トピックス＞ ①は理系との共通問題であった。また、分野をまたいだ融合問題は出題されなかった。 ＜合格への学習対策＞ 毎年のように微分・積分に関する問題が出題されており、さらに標準的・典型的な問題が多いため演習を積み重ねれば確実に得点源になるはずである。その際に、自分の力で最後まで計算して答えを合わせることを心掛けてほしい。ただし、どの分野が出題されても対応できるように幅広く演習して、苦手な分野を克服する必要がある。
--

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	C	平面ベクトル	ベクトルの内積、垂直条件を用いる。(1)と(2)ともに計算の過程で文字が含まれるが難しくはない。(3)においても、条件から立式することはたやすい。	標準
②	記述	B	数列	漸化式を用いて和に関する証明を行う。(1)を利用して(2)を証明することは予想できるが、どこから手を付ければよいかわからず、また文字が多いために最後まで導くことは非常に困難であったと思われる。	難
③	記述	Ⅱ	微分法・積分法	接線の方程式を求め、囲まれた図形の面積の差の最大値を求める。微分・積分ともに典型的で計算も難しくはない。 y 軸に関する対称性を利用すれば点Pの x 座標が正のときのみに限定できる。	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。